

会 議 録

会 議 名	第4回 嵐山町立小中学校再編等審議会					
開 催 日 時	令和 3 年12月16日（木）	開 会	午前 9 時00分			
		閉 会	午前11時45分			
開 催 場 所	嵐山町役場 204・205会議室					
会 議 次 第	1 開 会 2 あいさつ 3 議 題 （1）第3回会議録の承認及び署名 （2）第3回会議の質問事項等について （3）嵐山町立小中学校の数と位置について （4）その他 4 閉 会					
公開・非公開 の別	公 開	傍聴者数	3人			
非公開の理由 (非公開の場合)	/					
委員出欠状況	会 長	加藤 信幸	出	副 会 長	安藤 欣男	出
	委 員	池亀 亜衣子	出	委 員	内田 裕一	出
	委 員	山中 美佳	出	委 員	関根 盛敏	出
	委 員	横澤 紗智子	出	委 員	齋藤 彩乃	出

	委員	眞坂 直樹	出	委員	橋本 将	出
	委員	大嶋 佐枝子	出	委員	畝迫 昌和	出
	委員	小林 靖弘	出	委員	佐藤 博	出
	委員	小野川 和史	出	委員	高田 享	出
	委員	戸坂 心	出	委員	加藤 幹雄	出
事務局	教育長	奥田 定男		次長	山岸 堅護	
	指導主事	溝上智恵子		指導主事	不破 克人	
	主席主査	尾針 雄介				
総務課財政担当 (説明員)	総務課長	青木 務		副課長	金子 守	
次第	て ん 末					
1 開 会	事務局					
2 任命書の 交付	七郷小学校 PTA の推薦により審議会委員を任命していた内田茜委員から令和3年12月1日付で辞職願が提出されたため、七郷小学校 PTA から新たに推薦された内田裕一氏に奥田教育長より審議会委員の任命書が交付された。					
3 あいさつ	加藤会長					
4 議題 (1) 第3回 会議録の承認 及び署名	第3回会議録について、事前配布の資料に基づき内容を確認し、修正等はなく了承され、正副会長が署名する。					
(2) 第3回 会議の質問事 項等について	総務課 財政担当	<ul style="list-style-type: none"> ・建替えを前提に、学校に関する予算はどのくらいとれるのか 総務課財政担当より学校を建築する場合の財源措置について説明した。説明後、質疑を諮ったところ委員より以下の質問があった。				

加藤委員	学校を建設する場合に国庫補助を使える場合と使えない場合があるとのことだが、使えない場合というのはどのようなケースか。
財政担当	国が定めた基準に該当しないもの、或いは国が定めた基準金額と実際の金額との乖離部分については国庫補助対象外になる。
加藤委員	適正規模検討委員会の結論における施設一体型小中一貫校は補助の対象となるのか。
財政担当	国庫補助はやり方によって対象になるものとならないものがある。個々のケースについて財政担当では把握していないので、担当課に確認して欲しい。
事務局	一般的に、学校を建て直す場合は児童生徒数によって校舎の「必要面積」が決まる。今ある校舎等の「既存面積」を必要面積から引いた残りの部分が、国庫補助対象となります。
戸坂委員	国庫補助対象か単独事業どちらかではなく、この面積までは国庫補助対象で、それ以外の面積が単独事業と、ひとつの建物に両方が存在するとの認識でいいか。
事務局	委員ご発言の通りです。
橋本委員	この委員会の目的は学校の数と位置を決めることだと資料で確認したが、例えば今ある5校全てを建替える案は現実的ではないとしても、3校を建替える案は議論に値するものなのか。
事務局	選択肢としては色々なものがあり、その選択肢についてこれは駄目、これは良いとは事務局から申し上げることは難しい。この学校の問題を審議して頂いているのは、子どもの人数が減ってきていることが大前提にある。その点を念頭にご審議いただきたい。
財政担当退席	
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・菅谷小学校や七郷小学校について、大規模改修後にどのようなメンテナンスがされたのか。また、町としてのメンテナンスの方針がどのようになっていたのか。 ・学校の候補地を提示してほしい。 ・前回どこまで決まって、なぜ白紙になったのか。 ・簡易式トイレ設置の検討をしていただきたい。 ・審議会では、何をどこまで決めるのか。

		上記について事務局より資料を用いて説明した。事務局の説明後、質疑を諮ったところ、委員より以下の質問があった。
	加藤委員	メンテナンスについて。大規模改修後の修繕工事の一覧は施設管理費と同じと考えてよろしいか。
	事務局	一般的に施設管理費というと、電気設備点検や消防設備や清掃委託等も含まれると考えられるため、修繕工事と施設管理費とは違うものである。
	加藤委員	<p>それでは3点質問したい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各校の20年間の修繕費を比較すると、玉ノ岡中学校が極端に少ないが、その理由はなぜか。 ・前回の検討委員会が出した基本計画では、志賀小学校の大規模改修の費用は3億1779万円となっているが、今回の資料の大規模改修費用は2億1591万円である。約1億違うが、この違いは何か。また各校の大規模改修にいくらかかったのか、金額を教えてください。 ・予防的メンテナンスをこまめに実施した場合の金額を教えてください。
	事務局	<p>3点目の予防的メンテナンスをこまめに実施した場合の金額については、どのような建物の何をどこまでという条件で変わるので、額を申し上げるのはなかなか難しいと思われます。一般的にということであれば、もしかしたら調査できるかもしれないので、次回までお時間をいただきたい。</p> <p>2点目の大規模改修にかかった費用について、手持ちの資料がないため次回までに調べさせていただきます。</p> <p>1点目の玉ノ岡中学校の修繕金額が少ない件については、菅谷小学校はプールの改築工事、七郷小学校と菅谷中学校は体育館の改築、志賀小学校は大規模改修があったため、玉ノ岡中学校と比べて金額が高くなっています。</p>
(3) 嵐山町立小中学校の数と位置について	事務局	事務局より、前回の会議においてスピード感を重視して進めたいとの意見が多かったことなどから、まず町立小中学校の数と位置についてご審議いただきたい旨説明した。事務局の説明後、嵐山町立小中学校の数と位置について審議することについて質疑を諮ったが特になかった。
各委員の意見について		嵐山町立小中学校の数と位置について、各委員の現時点での意見、感想等をお聴きする。

池亀委員

11月20日に開催された意見交換会の午後の部に参加したが、そこでの意見をこの審議会の委員に伝えたい。午後の部は全体的に統廃合について反対の意見が多かった。七郷小学校をなくさないでほしいでほしいというものが多く、そこで出た意見としては

- ・少人数できめ細やかな教育をしてくれる七郷小をなくさないでほしい。
- ・バス通学になると、足の力が弱くなってしまう。
- ・通学に時間を取られることがかわいそう。
- ・学校がなくなるのは寂しい。卒業生や在校生の気持ちを考えてほしい。
- ・たとえ複式学級になったとしても、仲が良ければ構わない。複式学級の何がいけないのかがわからない。
- ・審議過程において審議会がどこまで関わるのか範囲を明確にしてほしい。
- ・統廃合の情報をもっと発信してほしい。決まったことだけでなく、経過についても公表し、意見をリアルタイムに言える環境を作ってほしい。
- ・統廃合の理由について、建物の老朽化と統廃合は別問題。老朽化したからといって、新しく1つの学校を作ってまとめてしまおうというのは乱暴すぎる。
- ・スピード感だけを重視するのは危険で、しっかりと検討してしっかりと説明してほしい。
- ・学校がなくなるのであれば、その跡地利用についてもしっかりと審議してもらいたい。
- ・統廃合しても人口の減少は続くので、人口政策と併せて考えるべき。
- ・新しい校舎を造っても、メンテナンスをしっかりとやらなければ何十年と経てばまた同じことになる。

というものがあつた。

私個人の意見としては、毎年2桁の子どものしか生まれていないのに、100人に満たない子どもを3つの学校に分けるのはあまり現実的ではないように思う。小中一貫校にするかどうかはまた別の問題のような気もしている。ただ小中一貫校という特色を作って魅力を持たせることにより、町外からの移住者を増やすことができれば良い。そうしたアピールポイントもなく、ただ一つにまとめてしまうのは乱暴で、アピールできるポイントになるのであれば一貫校でも良いと思うが、なぜ小中一貫にするのかの明確な理由が必要。他の自治体でも学校の統廃合に反対運動が起きている。この町でも反対運動が起きる可能性がある

	<p>り、せっかく審議を進めてもそうした反対で停滞してしまつてはもつたいたないので、しっかりと理解が得られるように進めたい。</p> <p>複式学級については問題があると感じているので、七郷小学校に複式学級ができるのは避けるべきかと思う。できれば小学校は3校を1校にするのが良いと思うが、町民の方の意見との兼ね合いで小学校2校でも仕方ないのかなと思う。場所については、何校にするのかにもよるし、土地の事もあるので具体的なことは言えないが、スクールバスを出すのであれば、どこであってもある程度大丈夫なのかなと思う。</p>
<p>内田委員</p>	<p>私も意見交換会に参加していて、スピーディにという意見が多かつたように思う。ただし、何をスピーディにやるのかを大事にした方が良い。学校の老朽化と統廃合の問題が一緒になっているが、別物であると感じている。仮に新しい学校を作ることになったとしても、学校ができるのは何年も先になり、その間老朽化による危険はずっと続く。審議会としてもこの点を町へ意見をあげていければと思う。</p> <p>学校の数の位置については正直考えが決まらない。最初は七郷小学校と志賀小学校の児童が玉ノ岡中学校へ、菅谷小学校の児童は菅谷中学校へと考えていたが、部活動など色々な問題を考えると最終的には菅谷に一貫校なのかなと感じている。その際は社会教育としても地域のコミュニティが希薄にならないようなケアが必要だと思う。</p>
<p>山中委員</p>	<p>意見交換会での意見について、反対意見ばかりが多く出るということは情報発信が足りていないのかなと思う。この審議会に参加して校舎の状態を見て、子どもたちの危険性を考えたら、寂しいからなくさないで欲しいとか思い出とかいうことで残してはいけないものだと思つている。情報発信については結果の報告だけではなく、今回の会議ではこの議題を話し合つてこういう意見が出ているだとか、何か意見があれば出してほしいといったオープンな姿勢を出していけたらいいと思つている。</p> <p>学校の数と位置についての意見としては、小学校を1校にするか2校にするかのどちらが良いのかは決めかねているが子どもの人数を考えると小学校・中学校ともに1校が最善なのかなと思う。子どもの人数はまだまだ減っていくので小学校を2校にする意味があるのかなという気持ちがある。予算的なこと考えると2つの建物を建てるのが可能なかどうか疑問もあるので1つの建物、となると一貫校になるかと思う。新しい年度が近づき、新しい子どもも学校へ入ってくるので、スピーディに進めたい。</p>
<p>関根委員</p>	<p>学校の数と位置については、未来ある子どもたちのこと、町の財政状況などを考えたうえで小学校と中学校を1校ずつ。一貫校にするかどうかは別としても、菅谷小中学校の場所につくる。これ以外はできないと思</p>

	<p>っている。この審議会の期限は令和5年3月31日までだが、一日も早く答申をまとめて、一日も早く統合に向けて動き出すことを強く要望する。</p>
横澤委員	<p>限られた財源を考えると菅谷中学校の場所に小中一貫校と考えている。菅谷小学校のプールを活用していくのがいいのかなと思っている。</p>
齋藤委員	<p>先日幼稚園からの手紙で再編の話し合いをしているのが多くの保護者に伝わった。それまでは知らない人が多かった。会議の内容をもっと周知すべきだと思う。周りの親からは早く方針を決めて欲しいという声がある。自分としては学校の数はいくつがいいのかまだ決めかねている。場所については前回の結論にあった菅谷しかないのかなと思っている。</p>
眞坂委員	<p>自分は統合を前提に審議会へ参加している。場所は菅谷がいいのではないかと思う。菅谷の人口が多いので、統合してスクールバスを出すとなったときに、沢山の子どもを運ぶより菅谷の他の少ない人数の子どもを運ぶ方が移動コストを抑えられる。広報での情報発信はもう少し細かな情報を出したほうがいい。例えば今日の資料にある各校のメンテナンス費用なども掲載して新校舎を建てた場合と比較するなどすれば数字として分かりやすいと思う。七郷小の思い出も大事かもしれないけれど、これから学校へ通う子どもたちにとってはこれから作る思い出が大事なので、そちらを優先してあげた方がいいと思う。子どもの人数は少ないのよりも多い人数で沢山の友達がいた方が楽しいのではないかと考えている。</p>
橋本委員	<p>学校の場所については菅谷なんだろうなと思う。小学校に関しては七郷小学校の問題についてはこの審議会の説明すべきだと思う。古里へ車で通勤しているが、大変に感じる時がある。その距離を子どもが通うことと思うと、この通学の問題はしっかりと説明していくべき。子どもを安全に通わせたい気持ちは自分もあるので、この審議会が学校の数と位置を決めるだけで終わってしまうのはもったいないと思う。</p> <p>少し提案をさせてもらおうと、七郷小学校に低学年だけでも分校を置くことはできないだろうか。小さい子を遠くまで通わせるのはやはり心配。数と位置については私も菅谷に小中1校ずつとは思っている。</p>
大嶋委員	<p>学校の位置については私も菅谷中学校の場所に建てるのがいいと思っている。数について中学校は1校で良いのではないかと思うが、小学校については、一貫校にするのか1校にして中学校とは別の建物にするのかは、はっきりとは決められていない。反対意見が多いのもわかるが、財源や子どもの人数が減っている現実を見たら、前回の計画の</p>

	<p>通りがいいと思う。七郷小学校には少人数の良さがあるとの話もあるが、高校にいったらもっと多くの人と関わらないといけなくなるわけだし、多くの人と関わることによって多様性も身につくように思う。少人数にこだわらずに、大人数のなかで学習して欲しいと思う。</p>
<p>畝迫委員</p>	<p>基本的には菅谷に小中一貫校がいいと思っている。人数が減っているのに分けている場合ではない。もちろん少人数の良さもあるとは思いますが、それ以上に弊害の方が大きいと思うので、比べた場合には人数はいるべきだと思う。バスを出すにしても学校が菅谷にあった方が効率が良いし、金銭面も含めて考えるとやはり前の委員会が出した結論がいいと思う。</p>
<p>小林委員</p>	<p>先ほどの眞坂委員の「過去の思い出よりもこれから作る思い出が大切」という話に感心している。私も七郷小学校の卒業生であるが、思い出よりもこれからの子ども達を大切にしたいという意見はとても良かった。</p> <p>これまでは小学校を北と南にひとつずつ、中学校をひとつで合計3校がいいかなと考えていたが、今は7対3くらいの割合で小中一貫校をひとつという考えに傾きつつある。</p>
<p>佐藤委員</p>	<p>菅谷に小中一貫校ということで異論はない。これまで皆さんのお話を伺っていると、ずいぶん七郷を気にされているなどの印象がある。スクールバスの話もあったが、インターネットで調べてみると行田市では当初バスを出すという話だったのが統合したら出なくなったということで揉めたりしている状況があるらしい。反対の数を減らしていくということであれば主に七郷の方に向けて条件的な整備を進めていけばよいのではと思う。</p>
<p>小野川委員</p>	<p>七郷小学校校長の立場としては、どこにいくつが良いとはなかなか申し上げにくい。個人的な意見を言わせていただくと、小さい時に小さい集団にいてもいいのかなと思う。将来必ず大きい集団に属するので、その前段階において学年を超えて助け合うという経験も時には必要なのかなと思っている。</p> <p>それとこの審議会の情報がないという話があるが、それは我々の努力しかない。町のホームページにも情報はあつたし、各学校の学校だよりも会議の内容はホームページをご覧下さいと発信している。委員の皆さんから口コミやSNS等を駆使していただいて、広めていくしかないのかなと思う。せっかくこうして皆さんが前向きに話し合いをしているのに、自分の所には話が来ないとか私は知らないとなってしまうので、アナログかもしれないけれど我々が発信していく必要があると思っている。</p>

	<p>最後に、子ども達の気持ちがどこにあるのかということを書いてあげてもいいのかなと思う。我々が想像で人数が多い方がいいとか少ない方がいいとか考えるのも大事だが、考え方が固まっていないということもあるが、子ども達が今通っている学校をどう思っているのかを少し聞きながら進めてもいいのかと思っている。</p>
高田委員	<p>玉ノ岡中学校は現在、特別支援学級の子も含めて2年生が45名、1年生が48名となっている。1学年2クラスを維持しているが、令和5年には42名、令和7年には40名ということで転校等があると1クラスになる危険がある。1クラスになると教員も減ってしまい、部活動の数も減らすことを検討しないといけない。教員が減っても校務が減るわけではないので、教員の負担が大きくなってしまう。また、小学校も高学年になってくると教科担任制が少しずつ増えてくると思うが、七郷小や志賀小へ半日の出張という形で行っている。小中一貫になれば同じ敷地内になり利便性があがり、小中9年間を見通した教育も可能になると思う。</p> <p>個人的な意見としては小学校については議論を要すると思うが、中学校については先行統合をした方が良く思っている。</p>
戸坂委員	<p>前の再編の話のときには、妻や妻の友達七郷小が無くなって寂しい気持ちがあったようだが、バスも出るということだったので、私はいい事だと思っていた。歩く距離が減って歩く力が弱くなるとの意見もあったが、行きも帰りも1時間かかってしまって他のことが何もできないのは、子ども達のやれることを減らしているように思う。</p> <p>小規模校については、小規模校に通う側が、大人数の側に対してそっちはそっち、こっちはこっちで少人数を守りたいというのが少し見えて違和感がある。縦長とはいえ同じ町の中で同じ水準の教育、同じ環境で学ぶのは大事なことだと思う。併せて新しい校舎が魅力になって他の町から人を呼べるようになれば同じ環境というのは大事になると思う。</p> <p>中学校については部活が非常に小規模になっていることは中学校の在り方としてはどうなのかなと思っているので、1校にするしかないなと思っている。菅谷に小中一貫なのかはわからないが、中学生にとって近くに小学生の目があるのは色々な抑止力にもなり得ると思う。広報の話については、フェイスブックやツイッターに審議会公式のアカウントを作って情報発信するのもいいかなと思う。</p>
加藤委員	<p>学校の数と位置についてということで、前回の皆様の意見でスピーディに決めたいという気持ちはとても伝わっている。私の考えとして学校の数と位置はこの審議会での議論におけるある程度の結果として出てくるものだと考えている。最初の段階で今の意見を披露しあうこと</p>

	<p>はそれなりに意味があるとは思いますが、それを考えていくにはいくつかの問題点をきちんと審議しないといけないかなと思っている。現在の意見は保護者アンケートを基本としていて、志賀小学校と七郷小学校を一緒にしないといけないという意見が多かったように思う。また一貫校にするのか、あるいは段階的にまず志賀小と七郷小を統合してというような意見もあったかと思う。私が財政の問題、修繕にどれくらいかかるのかを聞いているのは、再編の時期や段階を考えていくうえで、長寿命化なのか大規模改修なのか新築なのかを比較する際に財政的にはどれが得なのか、アンケートにもあったが子ども達の人数が減っていく現状で大きな建物を建てるのが得なのかという意見もあるので、どういった再編の手法をとるのかということが問われていると思うから。この審議会の役割は、18人の委員の「こういう結論になりました」という答申も大事であるが、アンケートに回答した800人の気持ち、アンケートの中身にきちんと答えていくことが大事だと思う。スピーディにというのもとても大事だと思うが、町民の方にこういう審議をして、こういう根拠でこういう結論を出しましたということを説明して、理解してもらい、あるいは納得してもらい。その役割がこの審議会にはあると思っている。</p> <p>学校の数と位置についての意見は、小学校は北と南に1つずつあって、中学校をどうするかについてはこれからの審議次第。</p> <p>私は今日スクールバスの話をしたかった。つまりとっかかりとなる具体的な話をしたいという意見が前回あったのと、アンケートの中でもスクールバスがどうなるかによって、再編に賛成か反対かわ変わってくるという意見があったため、スクールバスがどういうイメージになるのかを話し合いたかった。そういう具体的な話をここで議論して「これだったら安心だ」とか七郷の方たちも含めて「これならいける」というところを町民に対して提示していかないといけないと思っている。行田市や小川町のスクールバスの混乱を見ると、学校統合の話はどんどん進むが、具体的な話はどこまで決まったのかという点がわかっていないことが結構ある。具体的なとっかかりから議論を始めて、町民の方に議論した道筋を伝えて判断してもらいのが良いと思っている。</p>
橋本委員	<p>高田委員のお話で、小中一貫にすると中学校の教員が小学校の子どもに教えやすくなるというメリットがあるのはわかったが、これは部活にも同じことがいえるのか。小学校の先生が中学校の部活を指導することは可能なのか。</p>

高田委員	<p>前回の結論では施設一体型小中一貫校ということであった。これは小学校と中学校がそれぞれあって、同じ施設を利用するイメージである。職員会議等も小学校と中学校それぞれ別の会議になる。また、授業数も小学校と中学校で違うので施設一体型小中一貫校となった場合にどのようなことができるのかは、やってみないとわからない部分がある。先ほど話したのは、中学校の先生が小学生を教えに行くのに、同じ施設であればすぐいけるところを車で出張の形になるので、前後の移動を考えると4時間は空けないといけなくなるという話をした。同じところであれば、急な対応も可能になると思う。小学校高学年に英語が必修となり、小学校の先生で英語を教えられる先生がいなくなると中学校の英語の先生が小学生を教えるというような柔軟な対応が可能になると思う。</p>
安藤副会長	<p>小学校は子どもにとって本当に大事な基礎を作る段階である。学校だけではなく、親がどう関わるかが大切である。前回の計画の小中一貫校とはどういうものだったのか。教育の問題は進んでいたものが途中で止まってしまうようでは困る。そのために結論を一人一人に説明できることが大事だと考えている。</p> <p>また、学校を造るには国の補助枠も確保しなければならない。結論が出たからといってすぐ学校ができるものではない。その意味で国の補助金を活用する手順について教えてもらいたい。</p>
事務局	<p>補助金の内容については、建替えの場合、必要面積と既存面積の比較があり、必要面積が多い場合には補助対象となるということが基本的な制度です。もし、そうでない場合には単独事業になりますが、町が全額一括で支払うのは不可能でありますので、借入れをして事業を進めることとなります。補助金については文科省の補助金の他に、どういう学校を建てるかによって他の補助金の対象となる可能性もありますので、具体的に方向性が決まらないとお答えすることが難しい状況です。この問題は非常に複雑であり、先ほど財政担当より学校建築に出せる金額が1億7千万円という説明でしたが、今後の財政状況によって金額が変わることもあります。</p> <p>今後この審議会において答申がされ、学校を建て替えようとなった場合には、その答申に対してどうしていくかというのは町が考えることとなります。答申に対してその内容をどのように実現していくのかは町が考え、予算も含めて用意していくのが町の役割です。学校そのものは教育委員会が設置するのではなく、町が設置します。教育委員会は修繕工事の契約もできません。出していたいただいた答申をどう実現するのかは、町が考えることとなります。</p>

事務局	<p>前回の結論の小中一貫校については施設一体型小中一貫校ということで、ひとつの小学校とひとつの中学校がひとつの施設を共有するイメージです。上位免許を持つ中学校の教員が専門教科を小学校の子ども達に教えることが可能となっています。校長は小学校と中学校にそれぞれいます。</p>
眞坂委員	<p>先ほどの説明からすると、我々は予算のことは気にしないでいいということなのか。予算があってその範囲内で検討するものかと思っていたが、予算を気にせずに理想論で検討してよいのか。</p>
事務局	<p>基本的には、今眞坂委員が言われた通りです。ただ難しい所ですが、金銭的なことを無視してよいということではありません。諮問の際、教育長から申しあげましたとおり、子供の人数が減っている状況の中で学校再編の議論が始まっているという背景があります。この点を大前提としてどうしていくのか議論していただきたいのですが、お金のことは無視はできないとご理解頂きたいと存じます。GIGA スクールが始まりタブレットが配布されたことによって机の規格が大きくなりました。教室の大きさの基準も変わる見込みとの新聞報道もあります。今の建物を改築して新基準に合うものができるかどうかの問題もあります。この場合、国の主導で基準を変えるため有利な補助金がでる可能性もあります。こうした要素が複雑に絡むため、この場合はいくらというのがなかなか申し上げられない状況です。</p>
眞坂委員	<p>国庫補助を受けるにあたり必要面積と既存面積があるとのことだが、前回のケースでいうと、もともと学校があった場所に新しく学校を建てるとなると、既存面積があるので国庫補助の対象からは外れてしまうように思うが。</p>
事務局	<p>前回の案は、5校を1校に再編して菅谷中学校の敷地に建てるという案でした。現在の菅谷中学校は既存面積になりますが、小学校の既存面積はないため、小学校がそこにできることによって、小学校分は全て補助対象になるとの考え方であったようです。</p>
加藤会長	<p>そろそろ時間となるため、本日出していただいた意見は次回までに事務局にまとめてもらいたいと思う。今日色々なお話を聞いて色々な選択肢があり、結論までもっと多くの議論が必要だと思った。100点満点の答えは出せないかもしれないが、教育の主役は児童生徒であり、そのためにはどういう結論を出したらよいのかが我々に課せられた使命だと思う。</p>
内田委員	<p>学校での説明会あるいは意見交換会のようなものが必要だと思った。そのためにたたき台を作ってもらい、それをもとに説明すればよいのではないか。例えば七郷小学校の少人数の良さというのは小人数学級の良さであって、小規模校の良さではないと思う。再編して学校の規</p>

	模を大きくしても少人数学級を編成することによって、町外に対するアピールポイントにもなり得る。こうしたことを意見交換会などで保護者に説明すれば良いと思う。	
加藤会長	審議会での議論をどう町民にお伝えしていくのかということだと思 う。先ほどから広報や情報発信についてご意見が出ているが、それら と合わせて、事務局に調査研究してもらいたいと思う。	
山中委員	情報発信について、小中学校のPTAでは「マチコミ」というツールを 使って情報共有している。嵐山幼稚園でも導入していると思う。対象 が保護者世帯に限定されてしまうが、このマチコミ発信は学校からの 連絡事項も配信されるため広報よりも目を通してもらう確率があが る。アクセスを待っているよりもこうした情報を投げかける方が高い 効果を見込める。	
関根委員	マチコミでは会議のあとホームページへのリンクを配信すればよいと 思う。	
加藤会長	事務局で効果の高い情報発信方法について研究してもらいたい。	
(4) その他	事務局	委員の都合を確認し、次回以降の会議日程を以下のように 決定した。 ・第5回 1月13日(木) 9時 204・205会議室 ・第6回 2月 3日(木) 9時 会場未定
4 閉 会	副会長	閉会の言葉

以上、会議のてん末を記載し、その相違なきを証するため、ここに署名する。

令和 4 年 1 月 13 日

会 長 加藤信幸

副会長 安藤欣男